

家道訓

總論

內閣文庫 366

內閣文庫			
一 九 函	二 六 九	和 書	第 一 共
一 七 架	三 冊	二 號	類

太政官文庫			
	一 二 六 九	和 書	門
三 五 冊	八 函	二 號	

內閣文庫			
番號	和	11692	
冊數	3 (1)		
函號	190	366	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



益軒貝原先生著

家道訓

平安 瑞錦堂藏版

家道訓卷之一

貝原篤信編

人の世よあるたぐもきなりき言ふと世を
 ておとさるはつるをいふは家のなか
 身にわらぬなり 家におよびる主人に
 けり身と正しくしておとさるのふくし
 身はさるゝ家のいへる家のいへる
 らえと安くしおとさる子いつよ身と
 しては後乃患とわりのんかうるは

ねん必父母とるりつる父母は對しては
 色温むとてとあつす人つは父母の
 必成よりこりち父母の身いまらふ二乃に
 とつ關つるも皆人おしる老のさり
 ころはせばはよそむつる父母の身と
 つのよむる慕してなぶもくわはれら
 を考とす
 兄弟にじりましくまぬ糸と別れの妻とこ
 らしく母れとつて子牙とわえつり

めくおしといふ結色よつておしが
 私にく子牙とみらしはれとつと書と
 よく義をとりよまさらありし
 一凡子牙の教い必嚴正なる
 凡家のまうておれおしる人いまる父母
 によつるつと身一のつちと決し妻
 とみらしは子牙をせゆるとあ
 後よおれとつとつておれは
 ちくくつるつちあつて

女道一

くらあまきりやとんましとては先入打言ま
 とねの儀よあそつとんまてともうくは
 のまきりせつとては後よあしひくぬりて
 改りぬり
 先祖伝センゾたるしは言コトの御礼ゴレイおさるんか
 して親戚シンセキをあつくまてしん一親戚シンセキは
 さくしてお人はまてしん一逆サカサマちなり國クニはを
 あそれちりよさる人のゆるし國クニ家の政セイ
 とそくあつくははばきしと國政クニセイとて

おいそんちなる不忠不敬フチュフケイのつらかりつじ
 びん一そくば人のあつとも妻イザナ田イナをいひはば
 くらとてまつくは。おしとわの身ミとらうかお
 さめくつひよりのさばせしん一人をせあ人
 の不忠伝フチュひよとらうめととん
 凡ヒトおとせしひかよ。せん父子兄弟コソノイモトあぬら
 親オヤをあつくすし一古後コゴよ父子兄弟コソノイモト見
 才サウ和ワ一主婦シユブ一かおの肥ヒる也ヤてし
 つしあそ親オヤれせとん一富トモ一しん一もあらや



世よりかり

凡あるありて故人よ侍りりるよの言と約
かして無とらまじりる是と要しは言成
約とされ人の道とけ言成約より言
教と申すまじも言とい人よあられとて
かりそふ言する也教とい人をさやまひ
てわかごころちり此二はとて人倫よ
まじりるも言成約よよは也言成約
ハ教と教乃外よまじ父母とも教とらるとか

かして見才まぬ親戚下人よ射とるよ
まじりる言と人乃言よよりても教と
しうとされもかりそふまじりる也
是かりり申しはこととあかるとるも
是教あり

毎日つれねむそとて面成すい先父母
の言とて言成約の飲食のこととて言
て言のよとて言成約のありとて言
とめ約をいして父母乃ちようありま身

家訓一

下

みまのつとじまは裸袴をさつけとてえ
奴婢よまの西化とてつきおこりあり
しめ外するありの使を命し人の海託の
らに滞なくとての之し物いよくせよ戸
とよく開くせぬ回れ塵をさし戸の外
を中と掃きして皆のうたてくまし物
かしくわらわの家れとてろくろあるし
し古人家の塵をまら物せらるる乃
速といはれしとて云いし物せらるる

んぬの平田の用公のつとじまは
し第一よまのの林まとの掃き物せらるる
次よ掃き物とてとて掃除とてはらり
とてのつとじまの右の物まはせよ
の計しは奴婢とありしを食居
をまてはれせしめははらり
し男女内外乃別紙をさし
かす矢銃杖持多儀常以後に
水物

美乃ろくもるるとハ修補し。庭宅蔵庫牆
 壁の破換せり。成らぬ中修理し。材木竹藁
 土石取れ。修むるはよく短し。そか家ぬ
 り之き高敷と申さし。業蔬あふ。所ふ
 明つと。人申す。ち之し。葺のわけを。も
 入れと。家。盗賊と火災。の用。公つ。り
 ぶし。く。も。く。お。こ。る。久。く。は。火。取。成。り。ま。く。美
 ち。も。半。日。ゆ。え。し。元。家。田。の。も。つ。り。ひ。よ。公
 と。用。く。も。く。お。こ。る。久。く。は。

可民との小業ぬ。家業とつ。と。く。か。こ。る。は
 こ。と。儉約。め。て。修。む。つ。ま。ら。ぬ。め。が。あ。る。よ
 かり。も。ろ。り。る。久。く。は。勤。り。と。儉。ち。る。の。二。を
 是。か。と。申。す。り。る。要。法。あり。勤。儉。乃。二。と。は
 福。よ。り。る。也。し。

家業の最。く。の。法。地。と。修。め。し。な。た。と。た。り。
 又。必。ず。法。修。む。に。く。も。る。と。人。の。ま。り。ん。る。法
 ち。あ。り。る。と。法。地。と。は。海。と。ま。り。ん。る。か
 け。無。く。て。若。法。修。む。し。く。も。る。と。人。の。ま。り。ん。る。法

家道訓

わくくあえなる者ばわさつあぐらひたる
老も湯あとのあつむく老となんけ切イニケナキを
いつく一も病人とさつり人なり子弟に孝事
をすめりねむる一人の言とま能といわ
す一人のあまらんとすら人の怒れく
してあつひく人れさ怒といひあるよある
のどくあつらからくうと一人に害する物とい
つ道よとらうら物さひらうらむといひ
つひくうらうら物とあつらうとも放なく

てみたりよ教さひつひよかくのあつあつは徳
をゆるすり一十年とすへくひく人れさ言
つりそ大なり出しじり一かた一人とつあ
くのあつらうら一祝富あつ一人をや富て財カウラ
のあつらあつ一人とあつらう人れさ言わ
れん人れさ言つて切と多くあつらうら
いほに必わさつひ出るく切とすらうひ子孫
みと切とのうらつ切多と人ハむ父母
よりあつら親戚朋友のあつらとよめい

ヤルしこちなりし多しそ程ありてけし
即付^{ツク}母^{ハハ}を^{ハハ}さ^{ハハ}る^{ハハ}く^{ハハ}あ^{ハハ}け^{ハハ}し^{ハハ}て^{ハハ}後^{ハハ}必^{ハハ}じ^{ハハ}く^{ハハ}い^{ハハ}の^{ハハ}り
う^{ハハ}ら^{ハハ}ふ^{ハハ}つ^{ハハ}く^{ハハ}は^{ハハ}あ^{ハハ}を^{ハハ}終^{ハハ}や^{ハハ}を^{ハハ}始^{ハハ}ま^{ハハ}く^{ハハ}して^{ハハ}人^{ハハ}の
ほ^{ハハ}こ^{ハハ}し^{ハハ}す^{ハハ}く^{ハハ}い^{ハハ}ざ^{ハハ}る^{ハハ}と^{ハハ}い^{ハハ}え^{ハハ}乃^{ハハ}あ^{ハハ}く^{ハハ}こ^{ハハ}う^{ハハ}と^{ハハ}
り^{ハハ}の^{ハハ}の^{ハハ}た^{ハハ}さ^{ハハ}り^{ハハ}天^{ハハ}乃^{ハハ}あ^{ハハ}を^{ハハ}さ^{ハハ}る^{ハハ}と^{ハハ}
武士^{ハハ}と^{ハハ}ん^{ハハ}人^{ハハ}ら^{ハハ}武^{ハハ}儀^{ハハ}を^{ハハ}と^{ハハ}用^{ハハ}し^{ハハ}て^{ハハ}兵^{ハハ}具^{ハハ}と^{ハハ}と
との^{ハハ}と^{ハハ}ぬ^{ハハ}へ^{ハハ}と^{ハハ}ん^{ハハ}ト^{ハハ}と^{ハハ}る^{ハハ}は^{ハハ}修^{ハハ}補^{ハハ}し^{ハハ}常^{ハハ}に^{ハハ}常^{ハハ}
佩^{ハハ}せる^{ハハ}と^{ハハ}小^{ハハ}力^{ハハ}を^{ハハ}介^{ハハ}わ^{ハハ}か^{ハハ}ら^{ハハ}矢^{ハハ}陰^{ハハ}を^{ハハ}か^{ハハ}なり^{ハハ}と
何^{ハハ}と^{ハハ}ぬ^{ハハ}く^{ハハ}い^{ハハ}ら^{ハハ}さ^{ハハ}ら^{ハハ}り^{ハハ}と^{ハハ}り^{ハハ}い^{ハハ}ま^{ハハ}す^{ハハ}ら^{ハハ}い^{ハハ}ら^{ハハ}と^{ハハ}

へ^{ハハ}と^{ハハ}今^{ハハ}程^{ハハ}も^{ハハ}少^{ハハ}なり^{ハハ}と^{ハハ}武^{ハハ}儀^{ハハ}の^{ハハ}と^{ハハ}り^{ハハ}別^{ハハ}よ^{ハハ}た
く^{ハハ}と^{ハハ}差^{ハハ}し^{ハハ}み^{ハハ}常^{ハハ}に^{ハハ}何^{ハハ}村^{ハハ}も^{ハハ}不^{ハハ}足^{ハハ}し^{ハハ}て^{ハハ}と^{ハハ}と
用^{ハハ}わ^{ハハ}り^{ハハ}し^{ハハ}も^{ハハ}武^{ハハ}儀^{ハハ}の^{ハハ}と^{ハハ}り^{ハハ}よ^{ハハ}く^{ハハ}と^{ハハ}り^{ハハ}と^{ハハ}ぬ^{ハハ}て
用^{ハハ}わ^{ハハ}ら^{ハハ}れ^{ハハ}ん^{ハハ}た^{ハハ}を^{ハハ}ハ^{ハハ}地^{ハハ}乃^{ハハ}懸^{ハハ}ら^{ハハ}き^{ハハ}ら^{ハハ}う^{ハハ}ふ
し^{ハハ}お^{ハハ}ら^{ハハ}に^{ハハ}ま^{ハハ}を^{ハハ}す^{ハハ}ら^{ハハ}う^{ハハ}け^{ハハ}つ^{ハハ}と^{ハハ}り^{ハハ}う^{ハハ}ら^{ハハ}る^{ハハ}や^{ハハ}
み^{ハハ}ま^{ハハ}の^{ハハ}何^{ハハ}の^{ハハ}〇^{ハハ}く^{ハハ}何^{ハハ}を^{ハハ}し^{ハハ}と^{ハハ}り^{ハハ}か^{ハハ}ら^{ハハ}う^{ハハ}
は^{ハハ}み^{ハハ}ら^{ハハ}れ^{ハハ}何^{ハハ}は^{ハハ}陣^{ハハ}用^{ハハ}を^{ハハ}さ^{ハハ}い^{ハハ}ら^{ハハ}ん^{ハハ}た^{ハハ}り^{ハハ}して^{ハハ}と^{ハハ}と
の^{ハハ}と^{ハハ}ん^{ハハ}て^{ハハ}い^{ハハ}ら^{ハハ}り^{ハハ}か^{ハハ}ら^{ハハ}ん^{ハハ}た^{ハハ}り^{ハハ}う^{ハハ}ら^{ハハ}る^{ハハ}に^{ハハ}
武^{ハハ}具^{ハハ}と^{ハハ}と^{ハハ}用^{ハハ}ら^{ハハ}る^{ハハ}事^{ハハ}は^{ハハ}た^{ハハ}り^{ハハ}飾^{ハハ}と^{ハハ}と^{ハハ}す^{ハハ}ら^{ハハ}い^{ハハ}ら^{ハハ}

家道川一

家のまじつひよ仁孝めして善と終ふことあり
ことしはしひく縁材ありは兄弟親戚乃
貧窮こめ死にし朋友の念を以ては脚をわが
采地乃老人の錢をこすくひよりあふ久
しく来れる多困ある者よ何とて窮民
乃よりあたまを考あらしむらうにほい
てすくうて一人の肉よてむ人病者時人
行よ盲塞^{ハシト}牆^{マシ}をむく子れく幼して父を死
去らりる^{ハシト}親族^{シニ}をくてもつらう今に成^シ成^シ成^シ

る。せんうのれを人となり考あつて是は皆
窮民のよりある人なればしるべし。あつる
能ある考あらしむるのなればしるべし。いぬ
くじり。うきる考あつるいやはしるべし。乃
しく人ともむひをばとるる。ハ人ら世を
最^{モツト}末^トしるまも。をて用ゆる。漢の明帝
の才東平王の初よ本初をわつて。明帝
乃汝國よりつて何れや。あつて。同多ハ
あまを國ふわつて。善と終ふる。た。あ

家通判一

一、妻^メらねしむじり^ニちり^ニれ^ニん^ニ留^ルる^ニ
と^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
一、妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
ふ^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
と^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
昔^ノに^シと^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
昔^ノに^シと^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
昔^ノに^シと^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
昔^ノに^シと^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ

う^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
家^ノに^シと^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
一、妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
い^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
脚^ノに^シと^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
一、妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
又^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
又^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ
又^シ妻^メらね^ルる^ニも^シ後^ニよ^クな^ルる^ニて^シ昔^ノに^シ

家遺訓

一

ぐいよは忠せされへりうらうらと出あはく父子
 兄弟夫婦親戚乃らじりまうあはじゆ
 へよ人仕約しのまらぬれへさうまゆとま
 ぐいよは忠せしとくくくされに一家の因
 やういまきくへじも忠せとわらうらうら
 又人仕のまきとくくく忠せしつらあま
 なるとつくとくくは忠せしつらあま
 へうらひ

凡家人とつらまへ人の忠は神のうらうらひ

くるくくきくくしてくくくくくくくく
 けいごまきくく奴婢は主人とたのんて身はわ
 しくよ考也を月ひく情あはく神清ま
 らく情なくれとくくくくくくくくく
 つよ考い下人のうらひくくくくくく
 なるりそめんくくくくくくくく
 家とせしじふふい乃教ありへまの忠業を勤
 わく生業とせしじふふの儉約ありて神用
 とくくくくくくくくくくくくくく

家書
 一
 十五七

怒いつゝのちとて人乃んをとあけけりて人
 のこはじりするはしとてきよなるははと
 さす。抑もあを抑さじり人の言ははを
 ちりて
 子才のいけかまこひりて師とてきし
 救めくをかく聖賢の書とよまると言ふ
 抑え怒はいかりめ者才たは徳義廉
 恥のちとてけりけりしとてくちりて

少と怒りき友は変つて志ひりては是才
 つみよりしとて。のちきりて見まうしと
 けりす。いけかたはけいしとてあさし事
 ちりてけりてとてけりてあさし事
 先入乃言んやとてちりて友とあめ
 てはしりしめとてとてとてとてとて
 ちあはちあはちとてとてとてとて
 ちあはちとてとてとてとてとて
 ちあはちとてとてとてとてとて

約よとていつまやうなる也けしぬまふ
らとせおしりらびるんぬえ。是とん情懸とふ
せむ付申と節ふするい芽は地おこめぬと
なりつ道ちり福倍よ約をい夫るよいの
すむれどののふまじゆるれいあやまらと
くあしどれり

かぬのさまゝありてハ三族と志すしじとハ三族
ハ才一ハ父族才二ハ母族才三ハ妻族なり
父方の一族ハ申族と云ん祖より傳へたる

血脈クハ曰く親疏ニのうりあれとやまとい同ま
ちらゆんあらく志すしじとハ父族とあ川く
志すしじハ是又先祖つうふらるちり決りハ
母方の一族ハ是又族よつごも志すしじとハ
次ハ妻の一族ハ母の族よつごもハ三族と志す
しじとハ次ハ才三と云んは是古の儀也
今世人ハ妻族ともいふ志すしじとハ父族母族
みうとハ親マコまあると志すしじとハ父母ハ乃
不孝なり申るありと云ハ妻族と志す

いびくはよといわくとも。将を乃汝牙
あまー
わの義和た飲食の侍者ハクムトて先とハ
労働とく。おろして酒金の銀とこのお
ろりて身と安造よすくはおろしは
みくはくくのぬくとれと身一徳と昔い次
小身とやさしい次よ畑を中るふご入益阿
つ。飲食洗滌あて身と労働とねん食
業。深くはる無めくら。脾胃中たどー

生代書りよるる。ス身と勞とれえ報
雖勞苦ふくく。た孝乃仍。孝同慈。樹
と習ふよつとめよう。り。身体と労働を
は。て安造よあへハ報。雖よ。も。て
た孝のつとめとくる。孝同。同。慈。を
か。ろ。り。の。ま。ま。武。勇。の。く。れ。は。く。
軍陣もく。報。苦。よ。く。は。病。お。ろ。り。身。よ
り。て。用。ま。は。は。武。勇。と。く。げ。も。め。て。た
よ。と。ま。ま。安。造。あ。ま。の。労働。せ。し。て。

おれどおのりより利とじむるはこれと福
福をそのつらうあはるづとじむるはこれと福
よつとあはるじむるはこれと利とじむるは
おれど一且人よりきりつとじむるはこれと天
道のおくこのよおあれたは必福ありて人
の道勝りておれとゆんとして後の福とあ
るはこれと民たのびとあはるはこれと家
つらう天乃とあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家

人のおれ福の多く利とあはるよりあはる利と
じむるはこれと福とあはるはこれと福
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家
よつとあはるはこれと家

家通

情ありぬりさういなく。勤情のこまつ経り
ぢりゆりて。さうゆひとあ人もゆひ
しし。勤のたえ乃道也。天のちどろて。まじ
情に地の方也。地はちりゆりて。さうゆひと
しりて。つしゆに。まじゆりて。さうゆひと
とす。も人乃ゆりて。さうゆひと。さうゆひと
まじゆりて。

わが子身のよも。あつ父母のまよありて。ま
た君ふつて。人さう老く。父母よつて。さうゆひと
ちりて。さうゆひと。まじゆりて。さうゆひと
らも。父兄の家。ゆりて。さうゆひと。まじゆりて。
て。ゆりて。さうゆひと。まじゆりて。さうゆひと
又。まじゆりて。さうゆひと。まじゆりて。さうゆひと
まじゆりて。さうゆひと。まじゆりて。さうゆひと
とゆりて。さうゆひと。まじゆりて。さうゆひと
さうゆひと。まじゆりて。さうゆひと。まじゆりて。
ゆりて。さうゆひと。まじゆりて。さうゆひと。まじゆりて。
まじゆりて。さうゆひと。まじゆりて。さうゆひと。まじゆりて。

徳川

三

ゆへ申よふにふらふにひらきと申る時ハ只ハ
のハはあゝぬよ人とはひらふことハ
客と申すハ客を待たぬハ客を待たぬハ
クあふとひらふと申すハ客を待たぬハ
くれくれと申すハ客を待たぬハ
酒を待たぬハ客を待たぬハ
人乃分を待たぬハ客を待たぬハ
あふと申すハ客を待たぬハ
このんでのひらふと申すハ客を待たぬハ

客を待たぬハ客を待たぬハ
のハはあゝぬよ人とはひらふことハ
客と申すハ客を待たぬハ客を待たぬハ
クあふとひらふと申すハ客を待たぬハ
くれくれと申すハ客を待たぬハ
酒を待たぬハ客を待たぬハ
人乃分を待たぬハ客を待たぬハ
あふと申すハ客を待たぬハ
このんでのひらふと申すハ客を待たぬハ

碎クサレのそねたはま開アキめらるしつりまもあ
もかこころほふのひりしつらみよら
必後のうまひとある。附よト疑はほしめま
はふのちのねとてわらうところ。昔田舎好
うらうらひしちりよとほといひあま
みとれいたうさつちきあはちあり身を
失ふよいましとて人の家とやうに命と
うらまは多くはほの緒ちり
親戚トシといはれまのこゝろを思ふとて

それと情シヨクきうもくちる。念シヨクあはうとて情
さして厚コトうる人
おとせといひる。おの奴ヌ婢ヒもせうとておれあ
てまらまといちる。おの男ヲのあうとて悪く
やうらまといちる。おの風フのりらとせむら
とよらまといちる。おの儉シ約ヨクらうとておれ奴ヌ婢ヒあ
てあまといちる。おのふらとておれまといち
てあまといちる。おのふらとておれまといち

三言

それと云ふ所の是が女婢のあつたはる人
に云ひしは女婢にまじりて事多し。其の事
も一も老しき人にもいへり。まじりて
はる事なれば。いと。いと。いと。いと。いと。
と後いへり。いと。いと。いと。いと。いと。
いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。
いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。

これと云ふ。老しき人にもいへり。まじりて
はる事なれば。いと。いと。いと。いと。いと。
いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。
いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。
いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。
いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。
いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。
いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。いと。

三言

三言

まはすめあつても質実なる成好しに
あつてさうゆふれども質実なれども
乃教よきさうしやまはの徳を
りあつては白不撥不辯不義の徳を
あつてもさうあつてもあつてもあつても
してあつてもあつてもあつてもあつても
てあつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつても

ちんぐりあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつても

あはれなるるる一私とゆひくする人の福は
つと身もあらずんば利のたつたかへ必倭奸
たるゆへにその人の名もあらずしやばし
是れをいふにわいせしむるがら。ゆへに人
しこのじりくは
奴隷に罪あり。そのくはひきくしむるゆへに
らむ。あつてはあつてはあつてはあつては
とある。世にあらざるはあつてはあつてはあつては
れは各職分あり。大の者たるは。鶴の農は

つとるも亦職分なり。倉穀はくしのわ
し。況んをや。人各職分あり。あはれざるあり
ては。あつてはあつてはあつてはあつては
し。是れ職分なり。民のつとるは。わいせしむる
は。あつてはあつてはあつてはあつては
と。はくし。は。あつてはあつてはあつては
と。はくし。は。あつてはあつてはあつては
と。はくし。は。あつてはあつてはあつては
と。はくし。は。あつてはあつてはあつては

文書三二

心後よふれし父乃ゆつりとうけし
め又福と神くはるる時よりお成成神さじ
あよ約あしとわらひ熊とさうえく印
のましくわらひお成成と用るふ儉あし費
やいすお成成とつらめくおさうさる是皆
神よりしじありお成成とれは成ゆつり
して一生のちり身とせらるるまをそのあ
と心後よふしじありお成成とれは成ゆつり
つらめく若しじいお成成とれは成ゆつり

凡のさうちよしちされは後のあま
わつし時くるしんてはとあままへに一生お成成
後まとのあまらるるわつし時くるし目と
さきよは一生お成成とせらるるまをそのあ
ぬんと小人の言奴婢の傳言るまをそのあ
らひ父子兄弟まぬのつらめくあま
もお成成の人のつらめくお成成とれは成ゆつり
よちらぬんと小人の傳と信してさるるま
せら子孫くるしまあたらひ長とらるる

縁起

のり

しるたありし和漢古今すれりしは并ら
ずらんものなり也凡徳を非ざるも
そめれりしは作らざるも作らざる必
あやまるつしししししししししし
ふり必婦人よあたる
家のまゝ人々の徳を行はるるは凡徳を
へおるはたふさよえれしふ徳はたふさ
れし徳はたふさよえれしふ徳はたふさ
まゝし徳はたふさよえれしふ徳はたふさ

しししししししししししししししし
人ゆらふあまふしししししししし
まふししししししししししししし
ししししししししししししししし
富貴の家は貧乏なる親戚の出入り
人の仁徳のありきりあはるるは
の面目とすしししししししししし
りしししししししししししししし
りしししししししししししししし

はるきされ人の心の同じゆゑさうさうを
わづらのちと事わのねよあつらふ多
くしてゆげとて人の心はさうして
ありさうもほえさうしてふれはさう
うゝるたふはさうして君わさうして
わづらのちと事わのねよあつらふ多
くしてゆげとて人の心はさうして
ありさうもほえさうしてふれはさう
うゝるたふはさうして君わさうして

へらひちがなはれしそはらぐは人のあ
ひ也必みくらにあらむとて入るは
すくはとて是と信とれたる父子
必る和よわらむとて
妻をわらふはとて性約のしれたる
とて風俗とてさうして人品のは
わづらのちと事わのねよあつらふ多
くしてゆげとて人の心はさうして
ありさうもほえさうしてふれはさう
うゝるたふはさうして君わさうして

家訓

家と世にじりふ男女の別をいふ内外の辨と
さひくまへに淫乱なりしひんるは男女
の別なくあはれにけりされい子承乃とも
く礼儀なく風俗みくらみて淫行お
ひく風俗とけりし器あから入る子承と
ゆりて淫邪よかししりくとも
婦人女子のまじり外よまむ礼節をばとち
遊観とこのじりまあてし婦人に内上居て
家と流る風俗とすおにゆるるるをけき

いふるのしに親戚のちと忠使をいふ言は
と通とて
婦人いしりれ付法柔にしくあましくまへに
邪なりとゆふよまていさしに奴僕なるに
しりくまへて義理よるるにさしとていふ
あましくまへとけりあまし道程をい
ふとていさしとまへとまへとまへと
不暇してあまし和睦しあましとまへと
よまへとまへと礼とあましお射といふのは

らりり来しすれろく
おんはうのく礼義と心くしてあるすとを
さしきくじりしあるす物あるのらりり
ひかりかきし礼と忠ととせく信は己
しきりしじりしりも忠のいささしり物ある
ふち也ご忠のいささしり物来ては忠礼の
たふして無病のけしきも忠のいささしり
病をけしけしきも忠のいささしり病をけし
けしきも忠のいささしり病をけし

て某は服をんたり無病のけしきも忠のいささしり
まの病をけしきも忠のいささしり病をけし
家のさう人無の忠のいささしり病をけし
家法乃とて無病のけしきも忠のいささしり
とて無病のけしきも忠のいささしり病をけし
家の忠のいささしり病をけし
さふたけりも古人乃りしりも忠のいささしり
人もあかしのけしきも忠のいささしり
奴婢をつらうも忠のいささしり病をけし

家法

〇一〇二

新編
御成敗式目

卷之十

をびくきしはつるをゆれいあゆり
て罪とかりしごとくつらつらちりしやまきかひ
つらふをまれのちりもあまゆりつら
うひかりしちりもあまゆりつら
るんりしちりもあまゆりつら
らりしちりもあまゆりつら
ひちりもあまゆりつら
こひちりもあまゆりつら
たかひちりもあまゆりつら
濁洲タカシマのちりもあまゆりつら

も亦人の子也く選とるしつら
とく
りもあまゆりつら
ちりもあまゆりつら
ちりもあまゆりつら
子孫のちりもあまゆりつら
ちりもあまゆりつら
ちりもあまゆりつら
ちりもあまゆりつら
ちりもあまゆりつら
人の子也く選とるしつら

新編

一めと四の間に一
巻糸のれがせりさつて一とをさす法也
乃るれをば用しとあつてす下とせり
うせりてはねれよ國はよせしつ
らと附置よきうて一と法と風俗
ふじらさるるがらつてとて一と先程
い子孫乃根をちり年教つてつり
りともせしむてわらうてはねれ
糸つてとせりて一と法との心
をさす

あつては木の根よりつらうい
あきんせり根よあつてとれい子孫
理ありとせりれもあきん根よあつ
いさうとあつてとれい
らと一の法よとてはの目心
とていつてとて三月よあきん
あつて六月に塘とあつてとれい
とて三月に糖とあつてとれい
あきんせり根よあつてとれい
あきんせり根よあつてとれい

家語

時よいつりてつめて塘カスミとあるんをぞ世に
出といひのく後乃用を成せり人の心ん
やちるふとつりてをりてウマエカふけをいひてハ心を
憂ウレあつぬと世にひくのはよあつぬと
ツツミカあつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて

わの身事ミシつるつとあつぬといひていひて
いつたあつぬといひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて
あつぬといひていひていひていひていひて

家語 二
二

悔ありんてはせりて種よを成りて
つしどとちの身正せめて人母
物曲ありともなる人きほくはほせりし
りるる人き種と人よりなるありしと
わの家の子らひあはるるはは換失と
ほ無と人いふ人いあはるるはは種
人種は一人とさるるはは種と
つしどとちの身正せめて人母
又彼も種ありともなるありしと

種よありては我身よは種ありて非とも種
さひあはるるありし種よを成りて
以て種ありともなるありしと
さく人いひては種ありともなるありしと
て是と非ともなるありしと
後しとありともなるありしと
み種よを成りて種ありともなるありしと
そ種ありともなるありしと
の白ありて種ありともなるありしと

家道訓

家目録二
三三
とておきとせけと送つてとがおめら入す
多うはまおめらるはひのしんじりやじりや
のり^{カク}をあるううう十をに我の理ありとも
思てとくしやじりやとあるうううありとく
へんと思もこのの^{カク}とてとてとてとてとてとて
あるうとてとてとてとてとてとてとてとて
人よみ計ありとてとてとてとてとてとてとて
つとてとてとてとてとてとてとてとてとて
十茶のはひひくくくくくくくくくくくくく

己父母のよとてとてとてとてとてとてとて
二十茶のりりりりりりりりりりりりりり
らいお学とてとてとてとてとてとてとて
是とてとてとてとてとてとてとてとてとて
あるとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
孫八年わくくくくくくくくくくくくくく
計とあるとてとてとてとてとてとてとて
死後の事とてとてとてとてとてとてとて

...

あつたかまされの死よのそんでくちたれ
とひれはひれはりくぬ人茶^ミ新^シ仲^チの
後ちりきよのつれ今もあま新^シちり^チは
ひ年よき^シて針とあごん^チのあ^シわ^シ
らう^シ...

大正
...

高野
...

